

(様式第 9 号)

高槻市立五領中学校区 学校運営協議会 会議録

令和 6 年 1 1 月 1 1 日作成

会議の名称	令和 6 年度 第 2 回五領中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和 6 年 1 1 月 1 1 日 (月) 1 8 : 3 0 ~ 1 9 : 4 5		
会議の開催場所	高槻市立上牧小学校 多目的室	公開の可否	可
担当課	教育指導課 教育総務課	傍聴者数	0 人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)			
出席委員	石井 英真 神原 陸 北村 翼 谷本 紀子 中井 法子 松井 敦 萬谷 由美 柳田 元		
事務局出席者	(五領中) 西田 太郎 松丸 寛 安東 大輝 福田 竜也 大黒 景子 南野 香那 佐治 裕介 (五領小) 西田 佳弘 和田 博之 高嶋 温子 瀧村 恵実 小林 秀吾 田中 良享 (上牧小) 高田 聖美 中西 浩二 札幌 康浩 吉岡 俊和 三浦 聡子 福田 あや 正木 なつみ		
会議の議題	1. (報告第 2 号) 校区の取り組みについて 2. (報告第 3 号) サポーターについて 3. (説明) 第 3 回の予定		
配付資料	資料 1 説明スライド印刷資料 資料 2 令和 6 年度 五領中学校区グランドデザイン 資料 3 五領中学校区めざす授業づくりイメージ図 資料 4 五領中学校区 1 5 年間の系統表 資料 5 五領中学校区校区連携図 資料 6 サポーター募集チラシ (案)		
審議等の内容	・ 校区グランドデザインに基づく取り組み状況について		

(別紙)

令和6年度 第2回 高槻市立五領中学校区 学校運営協議会 会議録

議事日程

1. (報告第2号) 校区の取り組みについて
2. (報告第3号) サポーターについて
3. (説明) 第3回の予定

(18時30分開会)

五領中学校 安東 大輝

定刻となりましたので、「令和6年度第2回五領中学校区学校運営協議会」を開会いたします。委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご参集いただきまして、ありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます。高槻市立五領中学校の安東でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日配付しています資料の確認をさせていただきます。

「次第」に「配布資料一覧」が掲載されております。これより、その資料の確認をさせていただきます。

次第の【配布資料】を読み上げます。お手元にあるか、ご確認ください。

資料1 説明スライド印刷資料

資料2 令和6年度五領中学校区グラウンドデザイン

資料3 五領中学校区めざす授業づくりイメージ図

資料4 五領中学校区15年間の系統表

資料5 五領中学校区アクションプラン (案)

資料6 サポーター募集チラシ (案)

以上が、本日の資料となっていますが、不足等ございませんでしょうか。

ここからの司会を松井会長へ一任したいと思いますので、よろしくお願いします。

松井 敦 会長

本日は、午後の校内研修より参加させていただきました。スライドを使って、本日の流れについて確認させていただきます。本日の議題はこちらになります。(スライドで確認)

引き続き、本日出席されている委員の皆様方の確認を行いたいと思います。前から、石井委員です。神原委員です。中井委員です。柳田委員です。北村委員です。谷本委員です。萬谷委員です。

次に、学校関係者を紹介します。上牧小から、高田校長、中西教頭です。後ろにいて、吉岡先生、札幌先生、福田先生、三浦先生、正木先生です。五領中です。西田太郎校長、松丸教頭です。それから、福田先生、安東先生、南野先生、大黒先生、佐治先生です。最後に、五領

小です。西田佳弘校長、和田教頭です。その次は、高嶋先生、瀧村先生、小林先生、田中先生です。以上となります。

議事の作成を、前回に引き続き、神原委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、事務局を代表して上牧小学校の高田校長より挨拶をお願いいたします。

上牧小学校 校長 高田 聖美

委員の皆様、本日の学校運営協議会へのご参加ありがとうございます。五領中学校区は、昨年度、コミュニティ・スクールの第3期モデル校区として認証され、今年度から、正式に学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとしてスタートいたしました。今年5月22日に、第1回の学校運営協議会を実施し、皆様に、グランドデザインを承認していただきました。ここまで半年間ではありますが、五領中学校区の「自分を信じ 人とつながり 夢を広げる子どもの育成」を目指し、取り組んでまいりました。今日は、その途中経過ではありますけれども、これまでの様子をご報告させていただきます。

本校区のめざす子ども像の実現に向けた取り組みを進めていくためのご意見をさまざまな面から委員の皆様から忌憚のないご意見をもらえればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

松井 敦 会長

ありがとうございました。続きまして傍聴者について、確認します。

上牧小学校 教頭 中西 浩二

本日、傍聴者はいません。視察の方はいます。

松井 敦 会長

それでは、議案2に入ります。事務局より、校区の取り組みについて報告してください。

五領中学校 安東 大輝

ただいまより、五領中学校区の取り組みについて報告させていただきます。五領中学校の安東です。五領小学校の瀧村です。高嶋です。上牧小学校の札幌です。よろしくお願いいたします。

上牧小学校 札幌 康浩（①グランドデザイン）

はじめに、こちらが5月22日に開催した第一回学校運営協議会にて承認していただいた、令和6年度五領中学校区グランドデザインとなります。

本校区のめざす子ども像である、「自分を信じ、人とつながり、夢を広げる子ども」を育む

ため、「確かな学力の育成」「豊かな人権感覚の育成」「社会参画力の育成」の3つの重点取り組みを、校区として現在積み上げているところであります。この重点取り組みの

- ・「確かな学力の育成」では、授業の中で子どもたちが学ぶ楽しさを実感し、自ら学びに向き合う力を育てる。
- ・ペア学習やグループ学習など子どもどうしがつながり合い学びを深める工夫をする。
- ・個から集団そして個の学習時間を大切に進める。
- ・学習のめあてを明確にし、めあてにもとづいたふりかえりをするという4つの視点を校区としてそろえ、「対話」を大切にしながら、校区で互いに参観し、同じ講師の先生に助言をいただき、つぎの学びにつなげています。
- ・「豊かな人権感覚の育成」では、地域学習の中で、地域の願いを知り、地域や友だちとつながる経験を通して、自己肯定感の育成と人となつなげる力を育むこと。
- ・また、様々な教材を用いて人権学習を行い、いじめや差別を許さず自分事として考えられる力を育てることを校区として研究しながら、進めています。
- ・「確かな学力の育成」「豊かな人権感覚の育成」での取り組みを進めていく中で、「社会参画力の育成」につなげていきたいと考えています。

上牧小学校 札幌 康浩（②授業研究テーマ）

第一回学校運営協議会でも確認させていただきましたが、中学校区で取り組む授業研究テーマである、「なかまがいるから、わかった！・できた！・もっとやりたい！」、副題の「～つながりを学びの力に、学びの中からつながりを～」をめざし、「集団づくり」と「授業づくり」の歯車が互いに連動して、「つながり」や「学び合い」を大切にして、子どもたちの「意欲」や「可能性」を引き出しながら、学びを広げ、深めていく取り組みを行っています。

上牧小学校 札幌 康浩（③中学校区15年間の系統表）

ここまで確認させていただいている、本校区のめざす子ども像に向けて、コミュニティ・スクール開始以前より、就学前の保育園や認定こども園、小学校、中学校の15年間の経験や学びを通して、「つけたい力」を積み上げてきました。五領中学校区では、以前より「人権教育部会」「教科教育部会」「支援教育部会」「教育相談部会」「事務部会」に全職員が分かれ、担当する部会を中心に、校区の取り組みについての連携を進めています。

15年間の連携を大切にしている本校区ですが、今回は、コミュニティ・スクールとしての報告となりますので、小学校・中学校の取り組みの紹介をさせていただきます。

五領小学校 瀧村 恵実（④校区の取り組み・人権教育部会）

人権教育部会では、五領中学校区のめざす子ども像「自分を信じ 人とつながり 夢を広げる子ども」の具現化をめざした活動を進めています。自分たちが関わる子どもの様子や課題、「五領中学校区 めざす子ども像」に基づいた取り組みを各校園で実践し、交流しています。

また、人権教育や地域学習・キャリア教育の充実を図るため、0歳から15歳までのつながりを意識した系統表を用いて実践を行っています。系統表は子どもたちの実態に合わせながら、毎年更新し各校園での取り組みを行う上で活用しています。生活科や総合的な学習の時間、さまざまな教材なども用いて「豊かな人権教育の育成」や「社会参画力の育成」を行っています。

次は教科教育部会のようすです。

五領中学校 安東 大輝（⑤校区の取り組み・教科教育部会）

教科教育部会では、グランドデザインや授業研究テーマにもあるように、校区のめざす子ども像である「自分を信じ、人とつながり、夢を広げる子どもの実現に向けて、なかまがいるから『わかった！』『できた！』『もっとやりたい！』～つながりを学びの力に、学びの中からつながりを～」をテーマに、集団づくりと授業づくりの両方の視点を大切に、校区として授業づくりに取り組んでいます。具体的には、授業の中で子どもたちが学ぶ楽しさを実感し、もっと知りたい、やってみたいと自ら学びに向き合う姿につながるような魅力ある課題の追究を行っています。また、ペア学習やグループ活動を活用し、対話を通して子どもたちがつながり、学びを深められるような工夫を各授業で行っています。その中で「わからない」と安心して言えるような、またそういった仲間の姿に寄り添えるような集団づくりを人権教育部とも連携しながらめざしています。さらに校区として、定期的にお互いに授業参観を重ねることで、子どもたちの実態をつかみ系統的に子どもたちを育てていくこと、子どもたちの学びの連動性を深めることも意識しています。また、昨年度より京都大学の石井先生と大阪教育大学の森本先生にもご助言をいただきながら、校区として授業研究を進めています。家庭・学校・地域が連携して子どもたちの学びを育む「おうち de みんなで学び time」にも取り組んでいます。

五領小学校 高嶋 温子（⑥保認小中の取り組み）

五領中学校の強みとして、就学前施設も含めた校区で連携を図りながら、子どもたちが保・認・小・中のそれぞれの段階でどのような力をつけていく必要があるのか、学校・園がどのような教育活動を展開する必要があるのかを話し合い、取り組みを進めています。先日も、子どもたちが保認小中の段差を乗り越え、育ちを連続して培うための課題を共有することを目的に、上牧小学校にて保認小中全体会を行いました。テーマは「就学前施設における仲間とのかかわり、つながり、認め合う場面を大切にしたい取り組み」で、五領認定こども園、和光認定こども園、梶原ピッコロ保育園のそれぞれの就学前施設の先生方から、日々の取り組みについて発表いただきました。それをもとに、保認小中の先生方が混ざって、発表を聞いて感じたことや学んだこと、就学前施設で培った力を系統的に育むために各校園でできることは何かについて交流を行いました。当日までに就学前施設に子どもたちの様子を参観にも行かせていただきました。今週からは、就学前施設の方に小中学校に来ていただく予定です。また、校区での子どもたちの保認小中の関わりとして、オープンスクールや校区のクリーンキャンペーン、保育

実習などを行っています。今後もこういった保認小中での取り組みを大切に校区で子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

五領小学校 高嶋 温子 (⑦アクションプラン)

ここまで「15年間の系統表」から、様々な取り組みにおける子どもたちのすがたのご紹介をさせていただきました。このコミュニティ・スクールのスタートを機に、今、中学校区で「つきたい力」の見直しや、「アクションプラン」を考えているところです。

この「アクションプラン」は、園・小学校・中学校・家庭・地域と、子どもたちが育まれていく環境の中にいる「おとなたち」が、目標やビジョンを共有し、実現のために何ができるのかを考えていけたらと思っています。

五領小学校 高嶋 温子 (⑧学校教育活動サポーター募集について)

五領中学校区では、コミュニティ・スクールが始まる前から、地域の方々に様々な活動にご参加・ご協力いただけてきました。これまでにお伝えしてきた、「つきたい力」をめざし、「おとなたち」が総がかりとなって、教科や取り組み、行事などに、校区として関わっていただきたく、募集のチラシを作成いたしました。学校の枠を超え、校区としての募集になります。ぜひともご協力願えたらありがたく思います。よろしく願いいたします。以上で、校区の取り組みの報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

松井 敦 会長

ありがとうございました。五領中校区の取り組みについての発表でした。質疑応答にうつりたいと思います。皆様から、何かご意見やご質問とかがありましたら、よろしくお願いいたします。

中井 法子 委員

今、説明していただいて、保育所からずっと、先生方が子どもたちのために、一生懸命、教育に取り組んでいることがよくわかりました。ありがとうございます。

私たち世代は、勉強したことや点数が良かったということは、ほとんど覚えていなくて、当時のことについて何を思い出すかと言えば、「文化祭が楽しかったな」や「運動会が楽しかったな」ということを覚えていて、今も学校時代の思い出として残っています。

私は、長きにわたって梶原ピッコロ保育園の前に住んでいますので、同級生がこの周りにいます。どこで会っても、何年も経っていても、「元気？」とか「何しているの？」という声かけができる地域になっています。この地域の良さだと思います。

最近の子どもたちの学校行事をみると、運動会は簡素化され、縮小されているところがすごく気になりました。何かの行事をすることで、みんなが協力して一つのことに取り組んでいて、「早く帰りなさい」と言われても、準備に夢中になり、先生に叱られたという思い出があ

ります。それこそ、「つながり」というものがあつたと思います。その時に「この子ってこんなことが得意なんや」とか「この子ってこんなことができるや」と、いろんな発見がありました。そのような時間を取ることが少なくなっているの、それを感じてほしいなと思います。

今、どんな形で補足というか、学校の中でそのような時間を使って、子どもたちが「つながり」を感じたり、お互いを知り合ったりする行事の準備期間が大切だと思います。

今はその部分がどんな感じになっているのかが、気になりました。ありがとうございます。

五領中学校 校長 西田 太郎

先日、本校は、創立50周年を迎えました。開校当初は、スケート教室等もあつたそうです。当時は、土曜日もあり、週6日間登校していました。当時と比べると、今は学習内容も増えています。総合的な学習の時間があり、そこで探究的な学びをしています。自分で調べたいことや追求したいことができる時間でもありますので、その中で、子どもたちのやる気や主体性等、の社会に向けて必要な力をつけていけたらと思っています。授業で、探求的な活動があるので、昔のように、行事に時間をかけられない中でもてない部分があり、致し方ないと思う部分もあります。探求的な活動の充実を図っているのですが、学校の先生だけでは、なかなか達成できない部分もあります。そこに、地域の方の生の声を聞いて、子どもたちが『本物から学ぶ』ということを実感させていきたいということを考えております。よろしいでしょうか。

子どもたちのイベントや行事の充実についてはできるように、生徒会を中心に考えている状況ではあります。

五領小学校 校長 西田 佳弘

地域の方々には、各行事やクラブ活動、出前授業等でお世話になっています。ありがとうございます。校区として、ランドデザインに「自分を信じ 人とつながり 夢を広げる子ども」というめざす子ども像を掲げています。年間を通して「つながり」を意識したカリキュラムを組んでいます。「つながり」の中で、自分自身の自己肯定感を高め、自信を持って、自分の考えや学びを深め合っていく取り組みを進めています。その「つながり」を今後もどうつづけていくのが大切だと校区では考えています。低学年は、生活科を中心に、地域の方と連携することで、一生懸命に取り組んでいる大人の方々に出会う機会を設けています。

今日、2年生が、新名神高速道路の工事現場を見せられました。3年生以上は、総合的な学習の時間を使って、地域の方と出会う場面を設定しています。3年生は、地域の施設を訪問し、インタビュー活動を行いました。4年生は、鶴殿を守る活動をしている地域の方々に出会い、その凄さを実感しました。5年生は、学習田を通して、地域の農家の方と出会い、稲作の大変さを知りました。6年生は、総合的な学習の時間で平和学習を実施しています。

出前授業や地域の人とのつながりを通して、子どもたちは、さまざまなことを経験させてもらっています。地域の「たけのこ文庫」では、子どもたちが主体的にお祭りの企画などに参画

して、楽しんで活動していることも聞いております。

中井 法子 委員

先生方は、本当によくやってもらっています。ありがとうございます。勉強も大事だが、楽しいこともあるといいなと思っています。

萬谷 由美 副会長

普段、さまざまな活動をさせていただいてつくづく感じるところがあります。先ほど、先生からありましたが、人とのつながりです。子どもたちと地域のつながりをいろんなところでなげていただいていると思います。大人のつながりを見ると、先生方も地域もそうだなあとします。子どもたちは先生方同士のつながりをすごく感じると思います。この地域は、大人たちが元気だなど、子どもたちがいろんな場面で感じて、この地域で過ごしていきたいなと思ってくれたらすごく嬉しいことです。

資料5にある「めざす子ども像を実現するための取り組み」で、「地域」の枠の一番上にある「大人が生き生きと活動する姿を見せる」というところを子どもたちに見せることができるいいなと思いました。地域のお祭りはそれにあたると思います。

先週、PTAのOBとして、50周年記念式典に参加しました。そこでも人との関わりがあることを実感しました。現役を離れると、学校の先生との距離が遠のいてしまいます。そうすると、先生方となかなかつながることができません。そのような中でも、こうやってつなげさせていただいて、ありがたいと思っています。また、同時に、地域の顔と顔がつながることは、すごく大事だなと思っています。

質問ですが、今後もこれまでもいろんなことをしていただいています、そのような中で大人の顔がつながるような取り組みを考えている、もしくは何か工夫されているところを教えてください。先日、防災学習で手伝ってほしいということで呼んでいただきました。その時も教頭先生や校長先生とはいつもお話させていただいていますが、やっぱり他の先生方とは、初めましてという先生方がたくさんいらっしゃいます。そのような中で、子どもたちとの関わりを見せていただき、すごくいい時間を過ごさせていただきました。

今後、「こんなことを考えています」とか「工夫しています」などを聞かせていただけたらなと思います。考えておられることでも結構です。教えていただきたいなと思います。

五領中学校 校長 西田 太郎

先日は、防災学習へのご参加、ありがとうございました。お伝えしたようなケースで、地域の方の話を聞くということをしてよかったなと思います。

今後ですが、今年はもうスタートはしているのですが、職業体験があり、地域で働くということはどういうことかという考える場面を2年生で実施します。他の学年では、地域からお話を聞かせてもらって、歴史を考えるという機会ができたらいなと思っています。

また、中学校では、例えば、家庭科とか技術科とかいう技能的な教科で、一人の先生が30人ほどの生徒をずっと見ていますが、地域の方からの応援をいただければ、子どもたちがその技能を獲得する場面で充実が図れるかなと思います。いずれにしてもカリキュラムを見ながら、子どもたちが学べるところをお伝えして、お手伝いしていただける方に入ってもらえれば、いいかなと思います。その中で子どもたちは、地域の方と知り合ってもらい、また地域の方と学校の先生がふれ合う場面につながると思います。そういう機会を作っていきたいと思います。

五領小学校 校長 西田 佳弘

ありがとうございます。先ほども、サポーター大募集のチラシの方をご案内させていただきました。今年度に地域学校協働本部を模索して、中井本部長のもと発足をめざし、皆様に、ボランティアの参加への広がりについてお力を貸していただければと思っています。

先ほどもありましたが、認定こども園へ行かせていただき、取り組みを見させてもらい、それを各学校に持ち帰っています。今度、中学生が保育園に読み聞かせにいくので、絵本のことを中学生から尋ねられた読書ボランティアの方々は、本当に喜んでおられました。

今後は、読書ボランティアの皆さんにもこのコミュニティ・スクールの取り組みの中で、例えば国語の教科のつけない力に沿いながら、読み聞かせの実施について相談させていただきながら取り組めていけることがありがたいと思っています。

先日、3年生の習字では、以前はクラブ活動でお世話になった方に出前授業に来ていただきました。習字は、3年生で初めて経験するのですが、最初の出会いというのは非常に大切で緊張もします。子どもたちとそういった大切な出前授業を通して、本物の学びに出会い、その学びの中で楽しさや感動、素晴らしさを得てほしいと願っています。また、ボランティア活動の中でおとな同士の交流もできればとも思っていますので、よろしくお願いいたします。

上牧小学校 校長 高田 聖美

私が、上牧小へ着任する前から、教職員の人数が足りないため、地域の方々には、子どもたちの安全のために、活動について行くなど、本当にいろんなところでお手伝いや支援をいただいています。

ただ今後に関してですが、お手伝いや支援だけではなくて、先ほどの習字の出前授業を紹介されたと思いますが、実際に子どもたちへいろいろなことを教えていただき、支援者だけではなく、教える側になっていただけたらと思います。打ち合わせを重ねながら、お時間を取らせてしまいましたが、立ち位置の変更も含めて、幅を広げた形でお願いしたいと思っています。地域学習に関しては、堤防を越えた向こう側のことではありますが、地域の人々は入れ替わり、新しい方も入っておられるということで、この貴重な鶴殿のことを知らせていきたいと思っています。今週には、筆築（ひちりき）の演奏をしていただけます。

今年度は、初めてちまきづくりを教えていただくことになりました。いろんな方をお願いを

して教えていただく方を探してきていただきました。その時に保護者にも「お手伝いしてただけませんか」ということでお声をかけさせていただいたら、たくさんの保護者が来てくれました。その後、指導に来ていただいた方からのお話ですが、そこで出会った保護者の方に「すごく楽しかったです」とか「勉強になりました」みたいな声をかけられることも増えたみたいです。これがまさにつながりの広がりなのかなと思っています。核家族化ということで、自然には広がらないつながりも、学校の活動や子どもたちが人と関わるということで、そういった広がり方もあるんだなと思います。サポーター募集のポスターもありますが、保護者だけではなく、今はもう学校と関わりがなくなった方にも こういったチラシとかで周知することによって、新たに関わっていただけたらありがたいなと思い、準備を進めています。

松井 敦 会長

他にご質問等があれば、よろしくお願いします。

谷本 紀子 委員

先ほど、各部会でこんな取り組みしていますというご報告していただきました。2月に最後の報告があるのかなと思っています。今お聞きしていただいただけでは、子どもの様子が見えなくて、これに取り組んだことで、変化が生まれたといったエピソード等があるといいなと思いました。今日の授業は見るができなかったのですが、子供たちの様子が見られると嬉しいなと思います。

先日ある高校の校長先生とお話しすることがあり、その時にある講演会に行った時に、「子どもたちの集団づくり集団づくりと言う前に教員の集団づくりが大丈夫か」と言われたのです。先生方もこういう部会で、おそらく横と横同士でのつながりがあると、先生方にとっても嬉しいことなのではないかと思っています。答えていただきたいわけじゃないんですけども、意見として、お伝えさせていただきます。

松井 敦 会長

これは次回に回答ですね。

五領小学校 校長 西田 佳弘

ありがとうございます。地域学習で、例えば、鶴殿の学習をしていく中で、子どもたちは、それが自分たちの生活に直接役に立っているという実感が少ない中で、本当にこれは自分たちにとって大事なもののかなと思っていますところもあります。そのような状況の中で総合的な学習の時間でその地域で長年鶴殿を守ってこられた木村さんに出会ったり、アトリエ May さんに出会ったりして、地域のいろんな方々から教えていただく中で子どもたちは、本気でこの鶴殿を大事にされている様子をお聞きして、これだけ鶴殿に魅力があるんだということを知ったり感じたりして、子どもたちは心を動かされていました。子どもたちから「とんでもない

すごい場所だ」というつぶやきや思いが出て鶴殿をいろんな視点から捉える中で「必要で大事にしたい場所ではないのか」という話になっていました。いろんな生き物がたくさんいて、生き物の話を聞いて、思いが深まったという学びもありました。また、そういった学習をする中で地域の皆さんから褒めてもらったり認めてもらったりすると、自己肯定感もあがり、嬉しくなります。

このような学びを通して子どもたちは、例えば、友達との仲でいろんな揉め事があってもその経験の中で、自信をもって、落としどころというか、折り合いをつける力が育まれていっていると感じることもあります。子どもはそういったことを学びに変えて、いろんな課題を「自分ごと」に変えて解決に向けて、取り組むことを経験させていただいていることに感謝しています。

教職員の先生方も保育園から小学校中学校を含めてお互いに授業参観にいたり、実践報告をし合ったり、たくさん交流をさせてもらっています。いろいろな課題もありますが、それを全体で共有をさせていただいて、それも自分ごとにして一緒に成長していけるという姿があってありがたいと思っております。またその都度ご報告をさせていただきたいと思っております。

昨年度、連合自治会の柳田会長には4年生の出前授業でお世話になりました。ふるさと夏祭りの取り組みやいろんな思いを聞かせていただく中で、子どもたちは、自分ごとにして考える中で、「実は昔の友達に会えるから楽しみなんだ」「それは昔の自分に会えるっていう意味でもあるかな」などと嬉しそうに話し合ってもいました。本当にありがとうございました。

上牧小学校 校長 高田 聖美

五領中校区は校区連携ということが非常に強いです。その強さというのは、何ページもある冊子があるのですが、それを見て、積み上げてきたものだわかりました。先日から、小小交流というのがあり、五領小学校と上牧小学校の2年生同士が交流しました。運動会で「こんなダンスを踊ったよ」という交流があって、素敵だなと思いました。私がもっと素敵だなと思うのは、2年生の教室の前にお互いに交換したお手紙が貼られていて、「すごく楽しかったよ」とかいう内容でした。同じ校区内でもなかなか会うことがないので、そういう機会を設けることによって子ども同士がふれあい、それぞれに感じた言葉をお手紙にして、それを目にした時に、なんだかあったかい気持ちになりました。

今日も2時から校区の公開授業をして、話し合い活動ということをテーマにしています。なかなか気持ちを言葉にすることは難しいですが、一生懸命に書いている子どもたちの手紙を見て、オンラインとかいろんな便利なものもありますが、遠いけれども顔を合わせて一緒に何かをすることで、こんなに温かいものが生まれるのかなと思いました。

それから今日もそうでしたが、先週2週間前にも保認小中の先生方が集まって、就学前施設の方の話を伺った後、就学前施設、小学校、中学校の教員がバラバラになっていろんなグループで協議をしました。今日もそうですが、校種を超えて集まることに意味があるのではない

かと思っています。私もだんだんと先生方の顔を覚えてきて、いろんな意見を交わしながら、本来の教育ということを通して、話し合う機会があるということのを大事にしていきたいと思います。

松井 敦 会長

柳田さんお願いします。

柳田 元 委員

私は自治会の代表をしているのですが、やっぱり最近、自治会活動から離れていっています。個人的には、このようなサポーターで多くの方が関わっておられるということのをあまり知らなかった。組織的な参加には、「どうしよう」ということが、非常に多いということのを、いろいろと聞いて、感じております。自治会の側からは、そのような活動をされている方も含めて組織に入っていただきたいなということのを個人的には思っています。先生方もおっしゃるように、五領地区は、地域のきずなを大事にしているところもあります。私の立場からは、組織的な活動にしていきたいと思っています。

松井 敦 会長

ありがとうございます。学校としては何と心強い言葉だと思います。

神原 陸 委員

緊張で喋れるかどうかわからなかったのですが、どうしようと思っていたのですが、皆さんが温めてくれました。つどいの広場の神原です。

やっぱりコミュニティ・スクールは必要だなと、感じました。公開授業は、とても素晴らしかった。僕は、Cのグループをよく見ていたのですが、Cのグループには、最近までお休みされていたお子さんがいたのですが、先生が自然と周りのお友達へ「ちょっと助けてあげてね」とサラッと声をかけていました。また、先生が歩いていろいろ見ていく中で「ここはなんとかやな」みたいな感じで、周りの子を自分たちで支える力を促していました。ホワイトボードには、付箋が貼ってあったり、大きく拡大コピーしてあるものが貼ってあったりと、1時間の授業の中で、いろんなことを使っていることにびっくりしました。まだまだ目に見えない仕掛けがいっぱいあるのだらうと思いました。

先生と子どもとのやり取りの中で、その主人公の子が「どんなこと考えたんや」という話をした時に、子どもが「それはなんか想像でなんとかやろう」みたいな発言があり、教科書の枠からはみ出るようなことを発言していました。それは、教育の観点で見たら、この教科書の考え方はもしかしたら正しいことなのかもしれませんが、今は教えてもらっている枠組みから外れるような想像力をもってジャンプさせることが、これからの教育では必要だと思っています。

ジャンプするために、何が必要なのだろうと思ったら、それは地域の力なのかなと思っています。小学校の先生方にこれ以上の負担をかけさせられないし、ジャンプするためのいろんな想像性やイメージ力を養っていくには、地域にあるふるさと祭り等の行事の中で、地域の力が必要なのかなと思います。学校の先生に負担ばかりかけるのではなく、もう少し地域が参入していくところがあるのではないかと考えさせてもらいました。

協力できることは地域の人間として登録したいと思っています。これからもよろしくお願いします。ありがとうございました。

松井 敦 会長

ありがたいことですね 他にもご質問あればお願いします。

北村 翼 委員

自分だけ話さないのもいけないので、感想を伝えます。

小学校を中心に話しますが、先生方が校種を超えて地域の親の様子あるいは子供の様子等を情報交換ができるということはすごく大事なことだと思います 昔の話ですが、新任の教師になりたての頃、小学校、中学校、幼稚園対象の教員の研修会の時の言葉があります。その時に実は高校の先生は、「中学校の先生と話したい」という希望が多かったのですが、一方で、中学校の先生は中学校と小学校の先生同士の間で、「直接繋がっているから高校の先生と情報交換するは、イヤだ」と言っていた。小学校の先生と高校の先生と割と気軽に話していました。「今の小学校ではこんなやで」とか「こんな風に教育の中につながっている」という話の中で、小学校の時に「どうだったのだろう」という情報交換ができていました。今日の発表を聞いていて、小学校と中学校の先生方が直接会っていろんな話ができていることは、すごくいいことですね。だから、情報交換ができる環境というのをもっと作り上げていただけたらありがたいなと思っています。

それと、このサポーターの件で言うと、今日、私も授業を見させてもらって感じたことは、授業へサポートで入るのであれば、事前にきちんと担当する先生と打ち合わせしておかないと、授業に入られないと思うのが正直なところです。先生たちは、子供の様子をよくわかっていて、普段の授業を通して、「この子たちのこの集団というのはこういう風なところがあるからこういうふうに行こう」というようなことをずっと積み重ねています。そのような中で、「できたら授業を助けて欲しい」と言われ、今日突然、予定が空いているから、国語の授業を助けてと頼まれても、いきなりは行けないというのが正直なところです。

だからやっぱりある意味、教育というのは、プロの方が継続的にやっているからできることがあると思います。サポーターを求める場合は具体的に「これを、こういう形であるいはこの程度で」ということをはっきりと伝えた方が安心して参加してもらえるような形が作れるのではないかなという気がします。ありがとうございました。

松井 敦 会長

ありがとうございました。最後に、石井委員、よろしくお願いします。

石井 英真 委員

昼間は授業を見せていただきました。今回、夜の部ですけど、改めて、子どもの学びと教師の学びは相似形で、瓜二つということを感じたところがあります

今回、「なるほど」と思ったことに、私が他にも多くの学校運営協議会に関わっていて、五領中学校区の特徴が見えてきました。元々、結構、連携をしていたところで、その延長線上にコミュニティ・スクールがあるのですが、それが弱点にもなっている気がします。

先ほどから、子どもの姿が見えないと言うのは、結局、何か取り組んだ姿が、もう1つ見えにくいと思います。だから今回は、学校の顔を超えた共通で上積みのところが報告されたのではないかと思います。これを実際の取り組みまで落として考えると、それぞれの学校には、顔がありますが、具体的に「こういう風にこう育ちました」とかといったものがもっと見やすくなる。先ほどの話で「飛び越えていくみたいね」というところも、結局、学校では、教科だけではなくて、総合とか特別活動、つまり、教育課程なので、教科だけじゃなくて色んなものを全体で育てているということです。学校教育は、全体の計画にあたる教育課程があって、ここを具体的に教えてもらえるとイメージもつくのかなと思います。

例えば、総合の取り組みですが、カリキュラムがもう一つ見えなかったので、具体的に何をやっているのかという場合が多いです。つながりをつくっていくために、交流することが多分大事になってきて、集まるからこそできることがあるし 逆に言うと作るために集まることもある。その部分がないと、結局、集まるために集まると多分なってきます。交流する中身自体が充実してこない、それでは、先生方に繋がってこない。どんな学びを作っていきたいのかという中身のところを、カリキュラムにおける取り組みといったところが、もし伺えるのであれば、今日は時間がないのですけど、もう少し出していただいたらいいのかなということをおもいました。

だから、このつながりをきちんと形にしていくためには、子どもの新しい学びが作っている総合との関係で、何をどんな行事ならば残すのかという議論が必要です。最終的に先生方で、めざす子どもの姿もさることながら、教育課程を通して考えていく。

そうすることで、行事と総合の役割分担が結構大事になってくるのかなと思います。明確になることで、地域の人にどういうところでこう関わって欲しいということもより明確になってきます。

サポーター募集のチラシですが、十中校区でも同じようなものがありますが、FAX を使って応募をしていませんよ。Google フォームがあって、学校へ直接持って行かないようです。学校と連携すると手間が増えるということで敬遠する方もいらっしゃるようです。相手方に立つことも大事です。

上牧小学校 校長 高田 聖美

サポーターの募集チラシについてのご意見をありがとうございました。QRコード（Googleでの募集）も用意しています。募集のためのポスターについてはホワイトコンサートのチラシの貼る場所についても教えていただきました。例えば 上牧駅ですが、阪急上牧駅に貼るために、阪急高槻市駅に申し込めばポスターを貼れるそうです。また、「そこはすごく人が集まるから、あそこに貼ったらいいよ」とか「あそこのお店は貼ってくれるよ」とか「そこはだめだよ」みたいな助言をしていただき、今、進めようとしているところです。

まだ、サポーターの名前が決まっておらず、これから子供たちを通じて募集していこうかなと思います。QRコードのメリットデメリット、FAXのメリットデメリットもある中で、よりこの校区にふさわしいサポーター募集のやり方というものをアドバイスして頂きながら、今模索しています。また、いろいろな情報とかこの他の方法等の情報を集めながら、カリキュラムに関しても、教科カリキュラムであったり、総合カリキュラムであったり、その中に増やすだけでは どんどんと時間が増えていくだけです。

地域学習や国語であっても、場合によってはできない要素もあるので、どんな準備が必要でどなたにどのタイミングでお願いしたらいいのかも報告させていただけたらと思います。ありがとうございました。

五領小学校 校長 西田 佳弘

先ほど、指摘していただいた生活科または総合的な学習の時間は、校区としては、一番大事にしている取り組みです。人権教育を含めて、総合的な学習の時間を扇の要として、他の教科と連携して教科横断的に取り組んでいます。例えば地域学習の時に社会科と連携して、しっかりとつきたい力の育成に取り組んでいます。年間を通して、小学校も中学校も、4月から取り組み、また1年生から6年生まで、そして中学3年生まで系統立てて進めています。つけた力を確認しながら、子どもたちが体験学習や関わりを通して、総合的な学習の時間や生活科を要として各教科と連携してあるいは、いろんなものを活用しながら、再度、このカリキュラムを、作り直しています。

子どもたちが体験学習や地域の皆様との関わりを通していろいろなことを自分事にして考えたことや感じたこと、思ったことを、今度は言語化する作業をしたり、またいろんなものを活用し表現したりする取り組みをさらに強めていきたいと考えております。また、年度末には、ご報告をさせていただければと思います。

松井 敦 会長

よろしいでしょうか。時間の方も気になってきましたが、全体を通していかがでしょうか。

石井 英真 委員

今、手持ちのものをどう再構成していくのかです。行事も大事だが、整理が必要です。子ど

もたちの学びは、教科と学校生活を体験して育成されます。めざす子ども像との関係も考える必要がありますね。そういう意味では、地域の力が必要ではないでしょうか。

松井 敦 会長

学校は行事をもう一度、見直すことが必要ですね。では、最後に事務局より、終わりのあいさつをお願いします。

五領中学校 校長 西田 太郎

本日は、お忙しい中お集まりいただき、どうもありがとうございました。地域の人の応援がすごく熱いなあ、ととても感じた時間でありました。地域にある学校として、確実に地域に根付いているということを感じさせてもらいました。いくつかご意見をいただいたので、今後は、今残りの半年間で、どのようにどういう風に子どもたちへ力をつけていくのか、考えながら取り組んでまいります。

もう後半に入りますので、今やっていることをきちんと充実させて、自校や校区でできることは何かということも考えていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。今後ともご支援のほど方よろしく願いいたします。ありがとうございました。

松井 敦 会長

最後に、事務局より事務連絡をお願いします。

五領中学校 安東 大輝

本日は本当にたくさんの貴重なご意見ありがとうございました。また全体でもやっていきたいと思っております。ありがとうございました。

最後に事務連絡をさせていただきます。次回の協議会の開催日の確認です。第3回学校運営協議会にしましては、令和7年2月27日木曜日18時半から、五領小学校にて行います。また次回もどうぞよろしくお願いいたします。

本日の案件は全て終了となりましたので、これをもちまして令和6年度第2回五領中学校区 学校運営協議会の方を閉会いたします。本日はありがとうございました。